

ハンセン病の概要

◇ハンセン病とは◇

「らい菌」と呼ばれる細菌による感染症です。初期症状は、知覚麻痺や皮膚の発疹です。治療薬がない時代には、皮膚や手足の変形を起こしたり失明するなど、治っても重い後遺症を残すことがありました。かつては遺伝病であると誤解されたり、「不治の病」と考えられ、恐れられたことから偏見や差別の対象となりました。しかし、実際は感染力はきわめて弱く、感染し発病することはまれで、優れた薬が開発され確実に治療できる病気となっています。

◇ハンセン病をめぐる主な動き◇

年	出来事	注釈
1873年	ノルウェーのアルマウエル・ハンセン医師がらい菌を発見	
1929年	むらいげん 無癩県運動開始	①
1931年	らいよぼうほう 癩予防法制定	②
1947年	日本でプロミンの使用開始	③
1953年	らい予防法制定	④
1996年	らい予防法廃止	⑤
2003年	熊本県内のホテルにおいて宿泊拒否が起こる	⑥

【注釈解説】

- ① 全国の道府県が患者を療養所へ強制隔離し、患者ゼロを目指す目的の運動。
- ② 日本中すべての患者が隔離の対象となった。
- ③ アメリカで1943年に使用されていたプロミンが日本でも使用開始される。めざましい効果を上げた。
- ④ 戦後も絶対隔離政策が続く。療養所では外出制限や、患者同士の看病、介護、土木工事等の労働が行われ、療養所内で結婚した夫婦は子どもを持つことも許されなかった。
- ⑤ 約90年続いた国の隔離政策が廃止された。
- ⑥ ハンセン病に対する差別や偏見の根強さが浮き彫りとなる。

～現在の全国のハンセン病回復者の療養所について～

全国に13カ所の国立療養所があり、ハンセン病回復者の方が暮らしています。資料館をもつ療養所もあり、ハンセン病の歴史や療養所内での生活を学ぶことができる施設です。

～国立療養所星塚敬愛園の紹介～

国立療養所星塚敬愛園は、昭和10年に病床300床で開園。昭和18年には最大1,347名の方が入所していました。入所者は次第に減少し、現在は、ハンセン病回復者の方々が、医療や介護を受けながら暮らしています。



望郷の丘

星塚敬愛園にある丘。施設内で少し高い丘は、入所者が登り、故郷に想いを寄せたことから、この名前がついた。